

つながるひまわり畑 原 さつき (国際関係学科・学生)



はじめに

私には夢があります。それは、「心が動き続ける人生を送ること」です。ここでいう心が動くとは、嬉しい、楽しいはもちろん、つらい、悔しいも含みます。私は神戸市外国語大学に入学し、模擬国連に出会いました。そこで私にとって心が動くことが明確になった気がしています。自分の想いを人に伝える時、私は最高に楽しいと思います。私は、私の言葉で、私の声で、人の心を動かせる人物になりたいです。そして、「太陽と月、両方の役割を担える人物」になりたい。私は、自分の夢を追うためには、持続可能な社会が必要であると考えます。このことは多くの人が分かっていると思います。その中で、私は2025年の春、国連の本部に行き(模擬国連世界大会に参加するため)、「世界を持続可能な社会に変えてくれる誰かはいない」と実感しました。自分の目で国連の会議室を見たとき、話し合っているのは自分とおなじ人間であること、誰かじゃなくて、私たち一人一人が、今、持続可能な社会に向けて動きださなくてはいけない、個人の活動は国連の活動につながると強く思いました。

だから、私はニューヨークから帰ってきた後に、すぐ、自分のできる範囲で今すぐ持続可能な社会に貢献することを決め、「つながるひまわり畑」を企画・主催することに決めました。

「つながるひまわり畑」の動機

私は2025年7月19日(土)、20(日)に、兵庫県神戸市伊川谷で、鶴田農園の鶴田さんと協力して、畑で、「つながるひまわり畑」を主催しました(写真1)

「つながるひまわり畑」の目的の大きなビジョンは、「日常に心が動く瞬間を自分の力で創る」でした。そして、このビジョンを達成するための手段として私はひまわり畑を選びました。ひまわり畑を主催することを決めるときっかけは主に3つあります。



写真1:筆者と鶴田さん(筆者友人撮影)



写真2:つながるひまわり畑企画案(筆者作成)

1つ目は、私はお花畑が大好きだからです。お花を見ると、心がときめきます。このときめきをもっとたくさんの人と共有したいと思いました。だから、お花畑を作りたいと思いました。

2つ目は、ひまわりには緑肥効果があると農家さんに教えてもらったからです。農業・食品産業技術総合研究機構(国立研究開発法人)によると、緑肥とは、栽培している作物を収穫せずにそのまま田畑にすき込み、次に栽培する作物の肥料にすること、またはそのために栽培する作物のことで、ひまわりは緑肥効果がある作物に分類されます(表1)。

科名	作物名	土づくり(物理性)			減肥		減肥(有用微生物による)			有害生物の制御		
		有機物の供給	土壌硬度改善	透水性の改善	窒素の供給	カリの供給	リソ代菌類産微生物*3	菌根菌(リン吸収促進)	根粒菌(窒素固定)	土壌病害抑制*4	有害雑草抑制*5	雑草の抑制
イネ科(兼)	エンバク	◎	○		◎	◎	○	○		○	○	○
	ライムギ	○	○		○	○	○	○			○	○
イネ科(兼)	ソルガム	◎	○	○	○*2	◎	○	○			○	○
	ギニアグラス	◎	○		○*2	◎	○	○			○	○
マメ科(兼)	ヘアリーベッチ			○	◎	○	○	○	○			○
	クリムソクローバ			○	◎	○	○	○	○			○
マメ科(兼)	クロタラシ	◎	→+1	○	◎	○	○	○	○			○ →+1
	ヒマワリ	◎	○	○	○*2	◎	○	○				○
キク科	マリーゴールド	○	○	○	○	◎	○	○				○
	シロガラシ	○	○	○	◎	○						○
アブラナ科	カラシナ (H+3)	○	○	○	◎	○	○					○
	カラシナ	○	○	○	◎	○	○					○

表1: 緑肥に期待される主な効果と効果があるとされる緑肥作物の種類(出典: 農業・食品産業技術総合研究機構 2020)

そして3つ目は、畑で「つながるひまわり畑」を開催することは、農地に人を呼び込み、農業と私たちの距離を近づけるきっかけになると考えたからです。

このように、ひまわり畑を通して、私たちと花、環境、農業をつなぎ、持続可能な社会づくりに貢献したいと思い、私は「つながるひまわり畑」を主催することを決めました

「つながるひまわり畑」当日の様子



写真3:「つながるひまわり畑」(筆者撮影)

イベント当日は、約200人近くの方が伊川谷の畑に足を運んでくださいました。他のひまわり畑とは異なる付加価値をつけるために、私が工夫したことは主に3点あります。1点目はひまわり畑の形をハート形にしたことです。ハートの中に入れるようにしました。2点目は10本持ち帰り可能にしたことです。3点目は、農家さんの規格外野菜の販売を行ったことです。

来てくれた方々が、両手にひまわりを抱えながらお家に帰る姿は本当に私の心が動く瞬間でした！



写真4:ひまわりを持ち帰る私の友人(筆者撮影)

緑肥になるひまわり

「つながるひまわり畑」を行うことの意義として、ひまわり畑だけで終わるのではなく、緑肥として活用できることが挙げられます。これは、化学肥料に頼らずに、土壌を豊かにすることに貢献し、持続可能な農業手法につながると考えています。

実際に、ひまわりが美しく咲いた後、鶴田農園の畑に、トラクターでひまわりをすき込みました。夏に「つながるひまわり畑」が行われた畑では、そのあとにブロッコリーが植えられました！



写真5:緑肥になるひまわり(筆者知人撮影)

ひまわりコンポスト

「つながるひまわり畑」では、「1人10本までひまわり持ち帰り可能」という付加価値を付けました。持ち帰った花は、いつか枯れてしまいます。枯れてしまう花を堂々と愛するためには、どうすればよいのか。私なりの答えは、花が枯れた後も、次へとつながる方法を考えることでした。そしてその手段として、ひまわりコンポストを実施しました。



写真6:ひまわりコンポスト(筆者撮影)

おわりに

「ありがとう」。私が「つながるひまわり畑」を主催してみても一番感じていることは感謝です。素敵な農家さん鶴田さんとの出会い、多くの人に知ってもらうきっかけを作ってくださった神戸新聞の記者の方との出会い、そして実際に足を運んでくれた方々との出会い。私一人では、見ることのできない景色、感動をたくさんもらいました。

現在、私は、農業を現場で学ぶために休学を考えています。これまで「農業振興のために」「化学肥料に頼らない農業手法につながる」と言いながらイベントを開催してきましたが、振り返ってみると、自分自身が農業について十分に理解していないことに気づきました。だからこそ、まずは現場で学び、農業を深く知りたいと考えています。将来は、現場で培った知識と経験をもとに、畑で「お花畑」を行うことの価値や意義を多くの人に伝えられる人物になりたいです。そして、世界中にひまわり畑を創りたい！

これからも、私が好きな世界観を追求し、「心が動く瞬間を自分の力で創る」という私の夢に向かって、人々とのあたたかなつながりを大切に、私のペースで歩いていきます。

私とつながってくださった方々みんなに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

主要な参照・参考文献

農業・食品産業技術総合研究機構 2020『緑肥利用マニュアル:土づくりと減肥を目指して』

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/r/yokuhi_manual_carc20221007.pdf